



「長谷川等伯」主題に組曲

守屋純子オーケストラ新作

ジャズ・ピアノリストの守屋純子＝写真＝率いるビッグバンド、守屋純子オーケストラが新作「アート・イン・モーション」(スパイスオブライフ)を出した。安土桃山時代の絵師、長谷川等伯をテーマにした組曲を軸にする力作だ。

きっかけは、石川県七尾市で開催するジャズ祭が縁で地元の人々と交流を持ったこと。「何か恩返しを」と、七尾生まれの等伯の作品「楓図」を題材とした楽曲を2012年の守屋オーケストラのアルバムに収めた。「その後、『別の等伯作品にちなむ曲も聴きたい』などと求められ、散発的に作った楽曲を今回集大成しました」と話す。

組曲は著名な等伯作品に触発された5曲で構成。

「今回、等伯の足跡や人となりなども詳しく調べ、単に各作品の印象だけではなく、その背景にある等伯

の人生も反映させた」

例えば、「松林図屏風」は、京都に住む等伯が遠い故郷の松林を記憶を頼りに描いたことを知り、郷愁を感じさせる曲に仕立てるなど、工夫を重ねた。

等伯組曲のほかに、デューク・エリントン、チャールズ・パーカーら尊敬するジャズの巨人4人にささげた4曲も収録した。

「昨年は世界初のジャズ・レコードが発売されて100年の節目とあって、歴史に残る名曲を演奏する機会が多かった。自分なりに巨匠の業績に向き合えたことから、取り組んでみた」

1997年デビュー。米国のセロニアス・モンク・コンペティション作曲部門で優勝するなど、海外でも評価されている。

守屋オーケストラは来年2月22日、東京・渋谷区文化総合センター大和田で公演する。